企画・制作／(株)宣通
TEL.(052)979-1602
広告

健康講座 ドクター Q&A

Q 検診で尿潜血陽性といわれました。このあとどうしたらよいでしょうか。

A 尿潜血とは、尿の中に血液が混じっている可能性を示す検査結果です。健康診断で指摘されても、自分では尿の色の変化に気付かないことが少なくありません。尿潜血陽性だからといって必ず病気があるわけではなく、激しい運動や発熱、女性では月経の影響で一時的に陽性となることもあります。しかし、尿路結石、膀胱炎、前立腺肥大症、腎臓の病気などが隠れている場合があります。特に40歳以上の方や喫煙歴のある方では、膀胱がんや腎がんなど尿路のがんが原因となることもあるため注意が必要です。まずは泌尿器科を受診し、尿検査で実際に赤血球が存在するかを確認します。そのうえで、必要に応じて超音波検査、尿細胞診、CT検査、膀胱鏡検査などを行い、出血の原因を調べます。

「痛みも症状もないから大丈夫」と自己判断して放置することはおすすめできません。実際に膀胱がんや腎がんが、尿潜血をきっかけに早期発見されることがあります。一方で、詳しく調べても異常が見つからない方も少なくありません。尿潜血陽性は、体からの大切なサインです。重大な病気を早期に見つける機会と考え、早めに泌尿器科で相談することをおすすめします。

院長　折笠　一彦
(仙台腎泌尿器科)

1994年福島県立医科大学卒業。
1998年東北大学大学院泌尿器科学専攻卒業。
八戸市立市民病院、東北労災病院、白河厚生総合病院、東北大学病院、気仙沼市立病院勤務。
2022年4月より仙台腎泌尿器科。